



# 小中一貫教育推進室だより

色麻町教育委員会 教育総務課 小中一貫教育推進室 65-2111 (有線 2040)



## 新潟市と大潟村(秋田)の研究公開から

10月19日(月),新潟は朝から雨模様でした。この日は市立上所小学校を会場に,文科省研究開発学校指定の研究発表会がありました。この発表会は平成19年度から3年間,上所と女池の両小学校,鳥屋野中学校の3校が一貫した教育課程の開発に取り組んでの公開でした。

3校は新潟駅から南西に約2~3km圏内にあり,校舎はそれぞれ離れていますが,これからの社会を生き抜く上で必要な「人間力」(生きる力)の育成を大テーマとした,9年間にわたる一貫性のある教育課程開発に取り組んでいました。

即ち,子どもたち一人一人が個性を發揮し,自立しながら課題を解決したり創造的に生きる力を,「相互理解と課題解決のためのコミュニケーション力」と押さえ研究を行っていました。



中1社会技能科:中3との交流(会話)

そして,小・中学校9年間で4・3・2(前期・中期・後期)の区分でとらえ,発達段階に即した連続的な学習活動を進めていました。

秋田県大潟村は,かつて日本第2の湖だった八郎潟の干拓により,昭和39年10月に秋田県で69番目の自治体として名乗りをあげ,6世帯14人でスタートした村でしたが,その後日本各地から選抜された入植者が順次加わり,現在600名弱までになったそうです。

10月28日(水)は,爽やかな秋晴れのもと大潟村の大潟小学校と大潟中学校の小・中連携教育実践公開研究会が行われました。

本研究は,平成20年度より2年間,国立教育政策研究所の指定によるものでした。

大潟村には,同じ敷地内に小・中学校が1校ずつありますが,両方の校舎は1・2階の廊下でつながっており,ほぼ左右対称に造られていました。しかし,小・中の区分がはっきりしていて,職員室も別々でした。従って,教育課程も操作しておらず,それぞれの教師が校種内あるいは校種間の連携な



小5算数:「四角形や三角形の面積」

特に興味深かったのは,9年間で心理的・生理的に2段階に分け,小1~4までを学童期,小5~中3を思春期と区分していることでした。さらに学力的には,小3社会技能科:「希望と失望」その区分を具体的思考期・移行期・抽象的論理的思考期とし,「人間力」を育成するために,「社会技能科」「言語技能科」「英語表現」の時間の3つの教育課程を新設し,小学校では次のような授業の一部をそれらの時間にあてていました。



社会技能科 (道徳,総合的な学習)  
言語技能科 (国語,総合的な学習)  
英語表現 (朝の会,学級活動,総合的な学習)

また,中学校では(選択教科と総合的な学習)の時間や(音楽と美術)の時間の一部を,新設教科と英・数・国の指導にあて,基礎学力の充実と学力の更なる向上もねらっていました。

研究開発ということもありますが,変化の激しい現代にマッチした,とても大胆かつユニークな,教科の開発と取組だと思いました。

ど,週あたりの持ち授業時数に無理のない範囲で,教育効果の上がる方法を模索しながら,個に応じたきめ細かな指導を展開していました。

ご存じのとおり秋田県は,全国学力・学習状況調査の結果で,小・中学生ともにトップを維持しており,更には運動能力もトップクラスという素晴らしい成果を収めています。



両校は,昭和43年の開校以来連携を開始しており,現在3期目を迎えているとのことでした。

その過程において,近年に中3国語:「説得力のある話し方をしよう」になってやっと小・中の垣根が低くなり,教員が互いに学び合い,子どもたちへの理解が進んできたということです。さらにそのことが功を奏し,学力も向上し中学生に多かった学校不適応(不登校傾向)が急激に減ったということでした。また,地域や保護者も学校の取組にとっても理解があり協力的であるため,あいさつや家庭学習の定着によって,表現力や学力の面で成果が上がっているということでした。